



八千代町産「タカミメロン」を大田市場でPR



5月29日(金)、八千代地区農産物生産流通対策協議会(町、JA常総ひかり、普及センター)は、大田市場において、野村町長、JA常総ひかりの堤代表理事組合長らによるトップセールスを実施しました。八千代町のメロン栽培は110年の歴史があり、「タカミメロン」は6月中旬に出荷ピークを迎えます。

八千代地区メロン部会の岩田部会長は「今年も良いメロンに仕上がっています。皆様に美味しいメロンを届けたい。」と今年産の品質と食味をPRしました。

試食会では一口サイズのメロンを提供し、市場関係者からは、「爽やかな甘さで美味しい。」「美味しく仕上がっている。」と非常に好評で、用意した試食はすぐになくなりました。

今後とも普及センターとしても八千代町のタカミメロンの魅力を知ってもらえるよう、関係機関と連携してPR活動に参画していきます。



園芸部会でキウイフルーツ摘果講習会が開催されました

6月3日(水)、結城市でJA北つくば園芸部会結城果樹部のキウイフルーツ摘果講習会が開催され、7名の生産者が参加しました。

普及センターからは、摘果と新梢管理のポイントを説明した後、今後の気象の推移や病害虫の発生について注意喚起を行いました。また、天候が悪い中ではありましたが、参加した生産者と情報交換を行い、現在の生育状況について共有しました。

今年のキウイフルーツの開花は昨年よりも4～5日程度早くなりましたが、開花期の気温が高めに推移したため、着果は概ね良好です。今後も普及センターでは高品質安定生産に向けて支援を継続していきます。



JA常総ひかりで八千代地区メロン目揃え会が開催されました



5月22日(金)、JA常総ひかり八千代青果センターにてネット系ノーネット系メロン目揃え会が開催され、生産者24名が参加しました。

部会長からは「本会で目を揃え、高品質の出荷をお願いしたい。」との挨拶があり、参加した生産者は、お互いに意見を交換しつつ、出荷品をサンプルに品質区分の分け方、出荷規格、ヒルネットやひび割れ等の見分け方などを確認しました。

市場関係者からは「有利販売のためには良品出荷が大前提。高品質なメロンを期待している。」とコメントがありました。

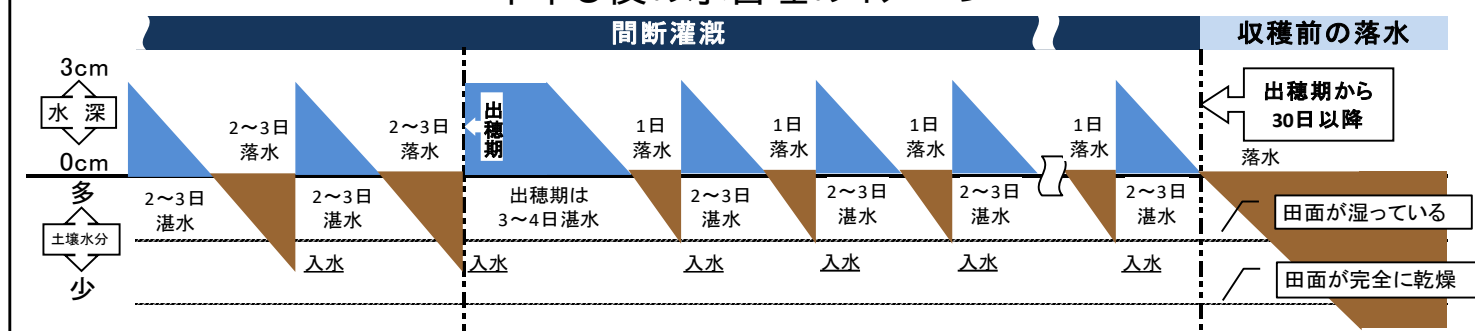
普及センターでは、今後も高品質なメロンの生産に向けて、産地を支援していきます。

中干し後は間断灌漑、葉色に応じた追肥を行いましょう！

① 間断灌漑を行いましょう

- ✓なぜ？ : 根に酸素を供給し、根の活力を維持するため
- ✓どうやって？ : 中干し後は「入水 → 自然減水 → 落水」を繰り返す
- ✓どれくらい？ : 田面が完全に乾く前(指で触ると湿り気を感じる程度)に再入水する

中干し後の水管理のイメージ



② 葉色に応じて追肥を行いましょう

- ✓なぜ？ : 近年は高温により白未熟粒が発生しやすい
- ✓いつ？ : 出穂前後に葉色が薄い場合
- ✓どれくらい？ : 出穂10日前頃に窒素成分1kg/10a程度を追肥
※基肥一発肥料でも葉色が薄い場合は実施

いのちの危険につながる、夏のひとり作業に注意

茨城県で令和7年5月～9月に発生した農作業事故129件のうち、57件(44%)が熱中症によるものでした。以下の対策を徹底しましょう！

- ① 十分な睡眠と食事を摂る。体調不良は熱中症になりやすい！
 - ② ファン付作業着や作業開始前・休憩時間中のプレクーリングも検討する。
 - ③ 万が一の際の早期発見が大切！できるだけ一人で作業をしない。
- ※プレクーリング: 作業開始前にあらかじめ身体冷却で深部体温を下げ、作業中の体温上昇を抑えること

